

川原寺 寺域北限の調査

飛鳥遺跡第119-5次調査
現地見学会資料



独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所 飛鳥遺跡公園発掘調査課



高橋古墳 高橋古墳は、高橋古墳群の主要な古墳で、古墳時代の中期後半から後期にかけて築かれたと考えられています。古墳の構造は、墳丘（土壇）と墓室（埋葬施設）から成り、墳丘の頂部に土室が設けられており、内部には土葬されたものと推定されています。高橋古墳は、高橋古墳群の中で最も規模が大きい古墳の一つとして知られており、その築造は高橋古墳群の繁栄を示唆しています。

高橋古墳群 高橋古墳群は、高橋古墳を中心とした古墳群で、古墳時代の中期後半から後期にかけて築かれたと考えられています。高橋古墳群は、高橋古墳を中心とした古墳群で、古墳時代の中期後半から後期にかけて築かれたと考えられています。高橋古墳群は、高橋古墳を中心とした古墳群で、古墳時代の中期後半から後期にかけて築かれたと考えられています。





もつことが明らかになりました。

瓦葺と瓦葺——調査区や周辺区にある瓦葺の遺構は、埋没した平瓦が敷かれており、これに続く石積みに瓦葺半床の存在が確認されます。また、瓦葺部直下の土層の土質は敷瓦直下の層と異なり、掘削部の瓦葺直下に比べて硬く、

金属工器——調査区の外側に発掘された埋没した銅器が多数見つかっています。銅器は銅加錫の合金で製造されています。銅器が一枚一枚に磨製されています。瓦葺の敷瓦直下の層に埋没していますが、銅器を製造した銅アが認められています。銅ア層で埋没層の深層まで掘って埋没層を確認できました。

調査所遺構——この時期の調査所遺構も確認されています。調査所時代の遺構は調査所をあらわす壁跡に認められます。調査所遺構は調査区や周辺区に認められるように見受けられます。



